2026 年 11 月 12 日
日本銀行神戸支店

兵庫県金融経済概況

（概　況）

兵庫県の景気は、一部に弱めの動きがみられるものの、緩やかに回復している。

個人消費は、物価上昇の影響を受けつつも、緩やかに回復している。設備投資は、増加している。住宅投資は、弱めの動きとなっている。公共投資は、高水準で推移している。輸出は、横ばい圏内の動きとなっている。

こうした中、生産は、横ばい圏内の動きとなっている。雇用・所得環境は、緩やかに改善している。消費者物価（除く生鮮食品）の前年比は、２％程度のプラスとなっている。

１．最終需要の動向

個人消費は、物価上昇の影響を受けつつも、緩やかに回復している。

百貨店販売額は、増加している。家電販売額は、緩やかに増加している。スーパー販売額は、底堅く推移している。乗用車新車登録台数は、横ばい圏内の動きとなっている。

県内観光地入込客数は、回復している。神戸市内主要ホテルの客室稼働率は、横ばい圏内の動きとなっている。

設備投資は、増加している。

９月短観における設備投資計画をみると、需要好調な分野での能力増強投資や、中長期的な成長に向けた研究開発・ソフトウェア投資を背景に、増加している。

住宅投資は、弱めの動きとなっている。

公共投資は、高水準で推移している。

輸出（神戸港）は、横ばい圏内の動きとなっている。

２．生産の動向

生産は、横ばい圏内の動きとなっている。

主要業種別にみると、電気機械は、増加している。はん用・生産用・業務用機械は、緩やかに増加している。化学、食料品、輸送機械、鉄鋼、金属製品は、横ばい圏内の動きとなっている。

３．雇用・所得の動向

雇用・所得環境は、緩やかに改善している。

４．物価の動向

消費者物価（神戸市、除く生鮮食品）の前年比は、２％程度のプラスとなっている。

５．倒産の動向

企業倒産は、緩やかに増加している。

６．金融面の動向

貸出金（末残）は、前年を上回っている。この間、貸出約定平均金利（ストック・総合）は、前月比上昇している。

預金（末残）は、前年を上回っている。

以　上

本資料は、日本銀行神戸支店のホームページにも掲載しています(https://www3.boj.or.jp/kobe/)。